



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第13回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 ロジン・バックの扱いが気になります

ロジン・バックの粉を大量に付けて、手の平だけでなく甲まで真っ白にしている投手を見かけることがあります。

プロ野球のテレビ中継では、ボールが投手の手を離れる瞬間に、ロジン・バックの白い粉がパッと飛び散るのをカメラがとらえています。本来は投げ手の指先にだけ付けるべき滑り止めの粉末です。手の甲や腕の部分にまで白が目立つとなれば、「付け過ぎ」だけではすみません。投手に限らず、時には汗抑えのパウダーと勘違いしているような扱いも見受けられます。小道具といえども無ければならないものです。グラブに付けるのは明らかに規則違反ですし、放り投げたり、グラウンドに叩きつけたりすることのないよう、取り扱いのマナーとして気を付けましょう。

なお、「ロージン」ではなく「ロジン」が規則書での正しい表記です。



ルール編 投手が手に息を吹きかけるのは…??

曇り空で気温の低い日、投手は手がかじかむため、指先を温めようと息を吹きかけています。ロジンのつけ過ぎを吹き落そうとして注意を受けたのとは扱いが違うのでしょうか?

規則 8・02(a) (1)により、「投手が投手版を囲む 18 フィートの円い場所の中で、投球する手を口または唇につけること」は禁止されていて、直ちに球審から「ボール」を宣告されるのがペナルティですが、アマチュア野球内規⑩で、「審判員はその都度警告してボールを交換させる」のです。ただし、【例外】として、「天候が寒い日の試合開始前に、両チームの監督の同意があれば、審判員は、投手が息を吹きかけることを認めることができる」と定めています。この試合では、審判員が天候に配慮して試合前に両チームの部長(責任教師)・主将と協議、同意を得て【例外】を認めていました。ロジンのつけ過ぎを吹き落そうとして注意を受けたのとは事情が異なります。

また、寒い時期にポケット内で軽便カイロを使用することも必ず同意を得てください。

ルールを正しく理解していれば、持てる力を精一杯発揮することにつながります。

